

芸備線再構築に関するより専門的な分析等調査事業 (新調査事業)の概要

令和7年10月10日
国土交通省 中国運輸局

調査事業の実施内容

- （１）調査事業 A から派生する追加的な調査等
- （２）まちづくり・観光との連携による地域社会や公共交通の持続可能性の調査
- （３）総合的な分析の実施

仕様書項目および想定実施内容（1/3）

注）記載の実施時期は、現時点までに確定している「実証事業A」の実証内容・実証時期を前提としたものであり、今後「実証事業A」の実証内容・実証時期が変更された場合は、一部項目の調査実施時期も変更となる可能性がある

#	仕様書項目	実施内容	実施時期	想定する成果物
（１）調査事業 A から派生する追加的な調査等				
①	実証事業 A を補完するためのデータの収集	列車利用状況調査	8月～11月 (現時点想定)	- 実証事業A期間中の芸備線利用者数データ (全体の輸送密度、特定日の列車別利用者数) - 芸備線利用者の回遊ルート、消費行動 (昨年度推計の精緻化)
		二次交通利用状況調査	8月～11月 (現時点想定)	- 実証事業A期間中の二次交通利用者数データ - 二次交通利用者の回遊ルート、消費行動
②	その他協議会・幹事会の議論において必要となるデータの収集	実証事業Aの効果検証 ※実証事業Aからデータ提供を受けて分析	速報：10～11月 確報：12月～1月 (現時点想定)	- 実証事業Aにおける各事業の利用者数データ - 実証事業Aにおける各事業利用者の回遊ルート、消費行動
		鉄道事業再構築（事業構造の変更等）に関する増加費用の試算	8月～12月	- 事業構造の変更および増加費用に関する他地域事例 (2～3事例程度) - 芸備線で想定される増加費用の試算結果

仕様書項目および想定実施内容（2/3）

注）記載の実施時期は、現時点までに確定している「実証事業A」の実証内容・実証時期を前提としたものであり、今後「実証事業A」の実証内容・実証時期が変更された場合は、一部項目の調査実施時期も変更となる可能性がある

#	仕様書項目	実施内容	実施時期	想定する成果物
（2）まちづくり・観光との連携による地域社会や公共交通の持続可能性の調査				
①	他地域におけるまちづくり・観光と公共交通の連携事例調査	公共交通と連携したまちづくり計画、観光計画・施策の調査	9月～10月	先行事例の調査結果（両者を合わせて数事例）
		公共交通と連携したまちづくり、観光振興を推進する体制の調査	9月～10月	
②	特定区間におけるまちづくり・観光と公共交通との更なる連携の検討	特定区間沿線におけるまちづくり計画、観光計画、その他地域振興計画に関する施策の整理	9月～11月	2県2市の施策と公共交通を連携させるアイデア - 連携を推進するための体制整備の考え方
		特定区間における、公共交通とまちづくり、観光、その他地域振興との連携のあり方の整理	12月～1月	
③	公共交通撤退による地域への社会的影響等に関する調査	旧三江線廃線に係る検討状況と、その後の地域や公共交通の状況整理	10月～12月	- 旧三江線廃線における検討経過 - 廃線後の公共交通の利用状況 - 廃線後の住民生活や地域経済への影響

仕様書項目および想定実施内容（3/3）

注）記載の実施時期は、現時点までに確定している「実証事業A」の実証内容・実証時期を前提としたものであり、今後「実証事業A」の実証内容・実証時期が変更された場合は、一部項目の調査実施時期も変更となる可能性がある

#	仕様書項目	実施内容	実施時期	想定する成果物
（３）総合的な分析の実施				
①	地域経済効果の試算の妥当性検証	今年度調査、実証Aの成果を踏まえた地域経済効果試算の更新	速報：10～11月 確報：1月～2月	- 地域経済効果試算 - 特定区間における費用および効果の試算
②	総合的な分析の実施	鉄道と他の交通モードの地域経済効果の比較手法の検討および初期比較の実施	初案：10～11月 更新：1月～2月	- 鉄道と他の交通モードの地域経済効果の比較手法 - 鉄道と他の交通モードの地域経済効果比較（概算）
		今後の議論に向けた論点整理	初案：10～11月 更新：1～2月	今後議論が必要な事項の一覧
（４）協議会・幹事会の運営事務補助				
		協議会、幹事会の資料作成補助、速記、議事録作成	協議会および幹事会の都度	- 協議会、幹事会の資料 - 協議会、幹事会の速記、議事録
（５）取得データと総合的な分析結果等報告書の作成				
		報告書のとりまとめ、納品	3月	- 報告書（電子データ版） - 報告書（簡易製本版25部）

調査の実施内容

調査実施スケジュール

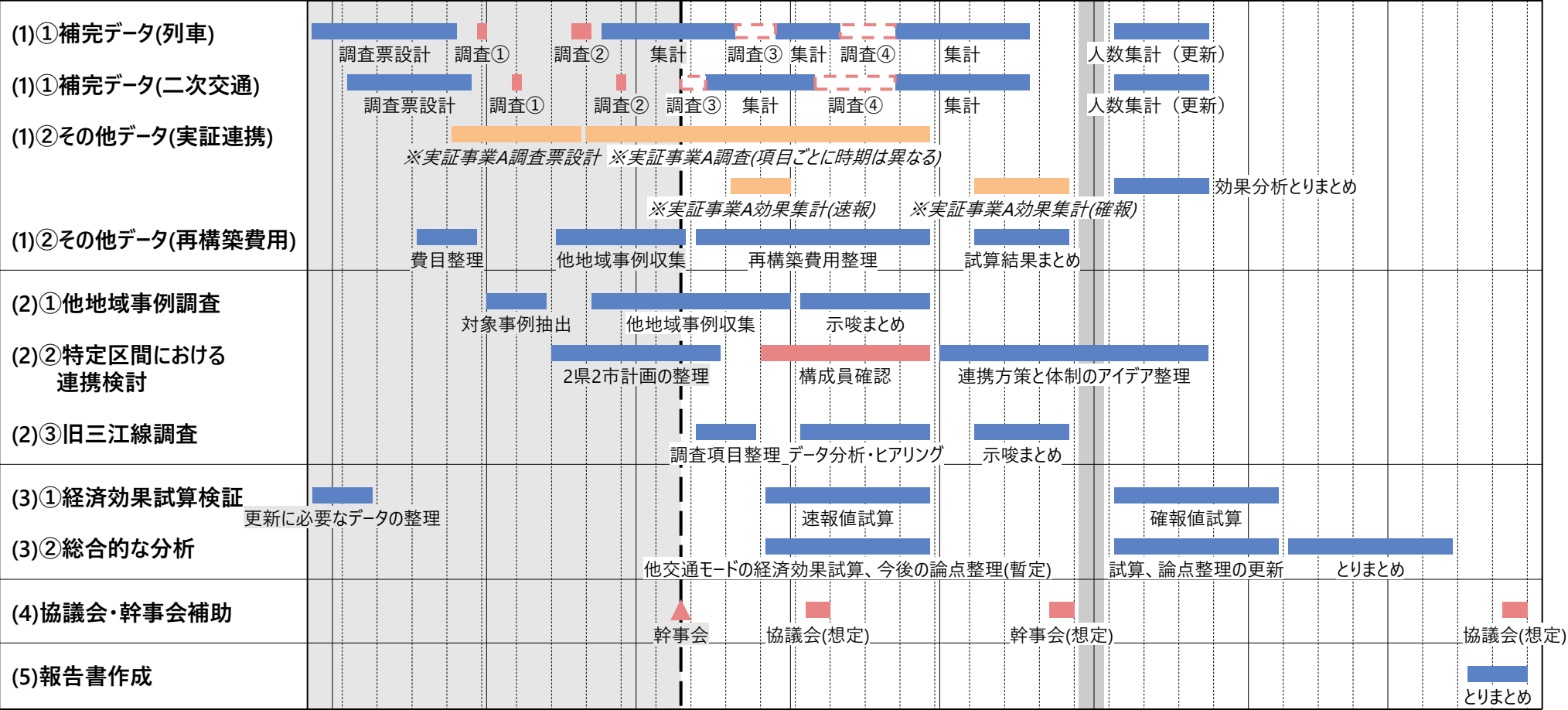
主に調査受託者が実施

主に構成員が実施

主に実証事業Aで実施

注) 記載の実施時期は、現時点までに確定している「実証事業A」の実証内容・実証時期を前提としたものであり、
今後「実証事業A」の実証内容・実証時期が変更された場合は、一部項目の調査実施時期も変更となる可能性がある

	8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月					
	03	10	17	24	31	07	14	21	28	05	12	19	26	02	09	16	23	30	07	14	21	28	04	11	18	25	01	08	15	22	01	08	15	22



■ 調査事業の実施内容

（１）調査事業 A から派生する追加的な調査等

■ （２）まちづくり・観光との連携による地域社会や公共交通の持続可能性の調査

■ （３）総合的な分析の実施

(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車・二次交通利用状況調査の実施

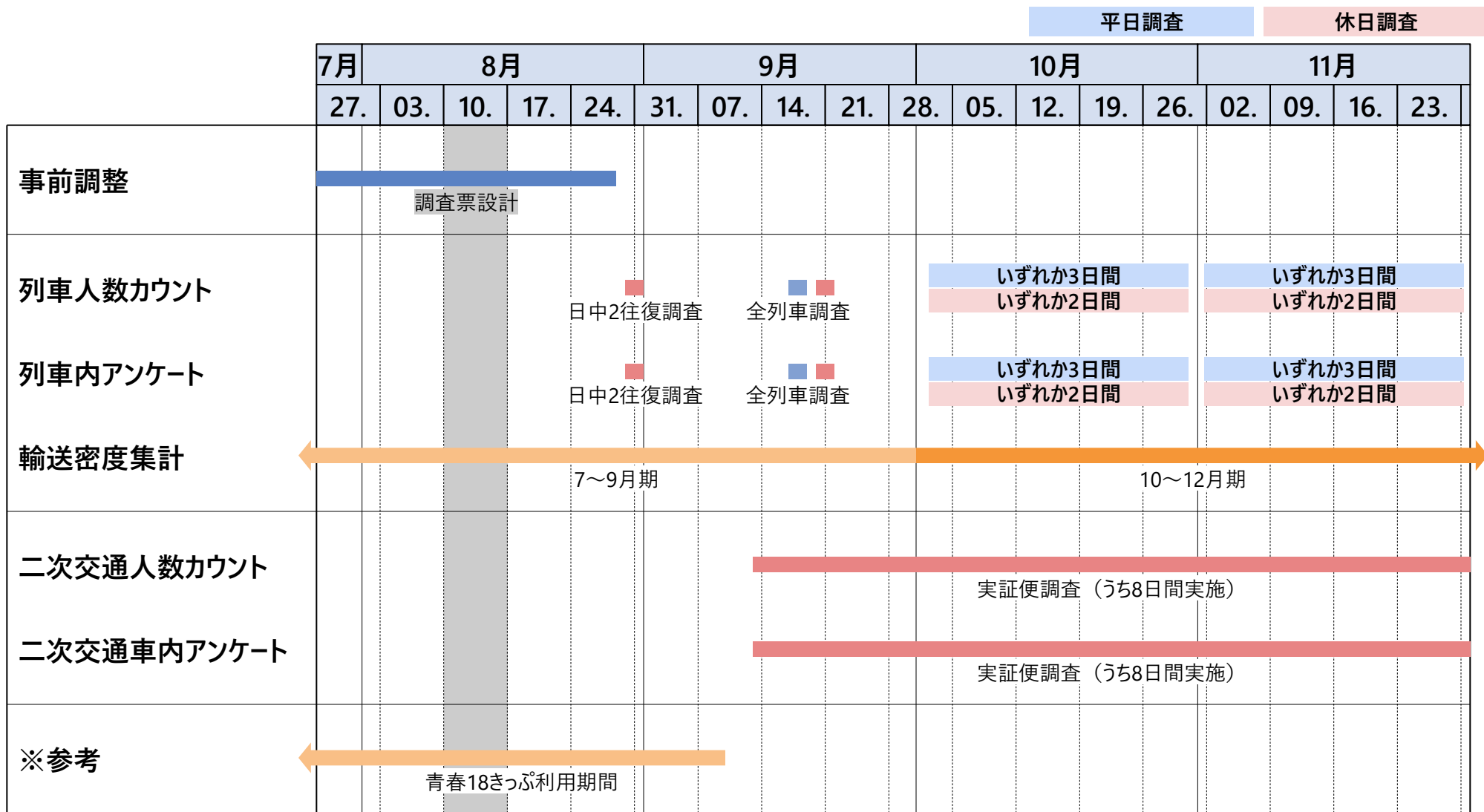
列車は、①休日全列車調査、②平日全列車調査、③休日日中2往復調査、④平日早朝・夜間調査の4種類、二次交通は休日全実証便調査の1種類を行う

	鉄道				二次交通
	①休日全列車	②平日全列車	③休日日中	④平日早朝・夜間	休日全実証便
ねらい	利用者数の 対昨年度比較、 R6年度概算項目の 精緻化	利用者数の 対昨年度比較、 R6年度概算項目の 精緻化	増便による観光 (・日常) 流動の 変化を深掘り	ダイヤ変更・ 延長運転による日常 流動の変化を深掘り	増便による観光 (・日常) 流動の 変化を深掘り
対象便	備後庄原駅～ 備中神代駅間 全列車	備後庄原駅～ 備中神代駅間 全列車	備後庄原駅～ 備中神代駅間 10～15時台の列車	備後庄原駅～ 備中神代駅間 6時台、17～23時台 の列車	実証運行の全便
実施日	9/20(土)-9/21(日)	9/17(水)-9/18(木)	8/30(土)-8/31(日) 10月のいずれか2日間 11月のいずれか2日間	10月のいずれか3日間 11月のいずれか3日間	エリアによって異なる ※8日間実施

※悪天候等の場合は予備日に順延させる
※10月、11月の日程は調整中

(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車・二次交通利用状況調査の実施

【参考】列車・二次交通利用状況調査のスケジュール詳細



（１）調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車・二次交通利用状況調査の実施

**列車アンケート調査は、経済効果試算にあたっての必要なデータを中心に収集する。
列車内で回答する負荷を踏まえて、A4で片面2ページ以内、原則番号選択式とした**

■ 列車アンケート調査は、調査票を二次元コード形式で配布する。

- Web回答が難しい方には別途、紙の調査票を配布し、ご回答いただく。

■ 人数は、各駅ごとにカウントを行う。

質問一覧（確定）

#	質問文
1	ご自宅のエリアを教えてください。〈○は1つ〉
2	本日の外出の目的を教えてください。〈○は最も当てはまるもの1つ〉
3	本日芸備線を利用したきっかけを教えてください。〈○は当てはまるもの全て〉
4	今回の外出において、庄原市・新見市エリアで使う金額を教えてください。〈○は1つ〉 ※交通費は除いてお答えください。 ※宿泊を伴う場合は、滞在期間中の1人当たりの合計金額をお答えください。
5	本日芸備線で使ったきっぷを教えてください。〈○は1つ〉
6	芸備線の乗車区間を教えてください。〈選択肢から数字を選んで回答〉 ※片道だけ利用の方は「行き」のみご記入ください。
7	もしこの列車が運休していたらどのように対応していましたか。〈○は1つ〉
8	JR芸備線に関する実証実験（芸備線の増便・時間変更、一部駅からの臨時バスの運行等） を知っていましたか、知っている場合は何で知りましたか。〈○は当てはまるもの全て〉
9	観光や芸備線への乗車が目的の方に伺います。 芸備線の駅で降りて、観光や宿泊は予定していますか。〈○は当てはまるもの全て〉 ※列車の乗り継ぎなど1時間未満の滞在は除きます。

（１）調査事業 A から派生する追加的な調査等 | 列車・二次交通利用状況調査の実施

二次交通アンケート調査は、二次交通整備で生まれた経済効果を推計するために実施する。バス内で回答する負荷を踏まえて、A4で片面2ページ以内、原則番号選択式とした

- 二次交通アンケート調査は、二次元コード付きの調査票を配布することで、Webもしくは紙よりご回答いただく。
- 人数は、便ごとにカウントを行う。

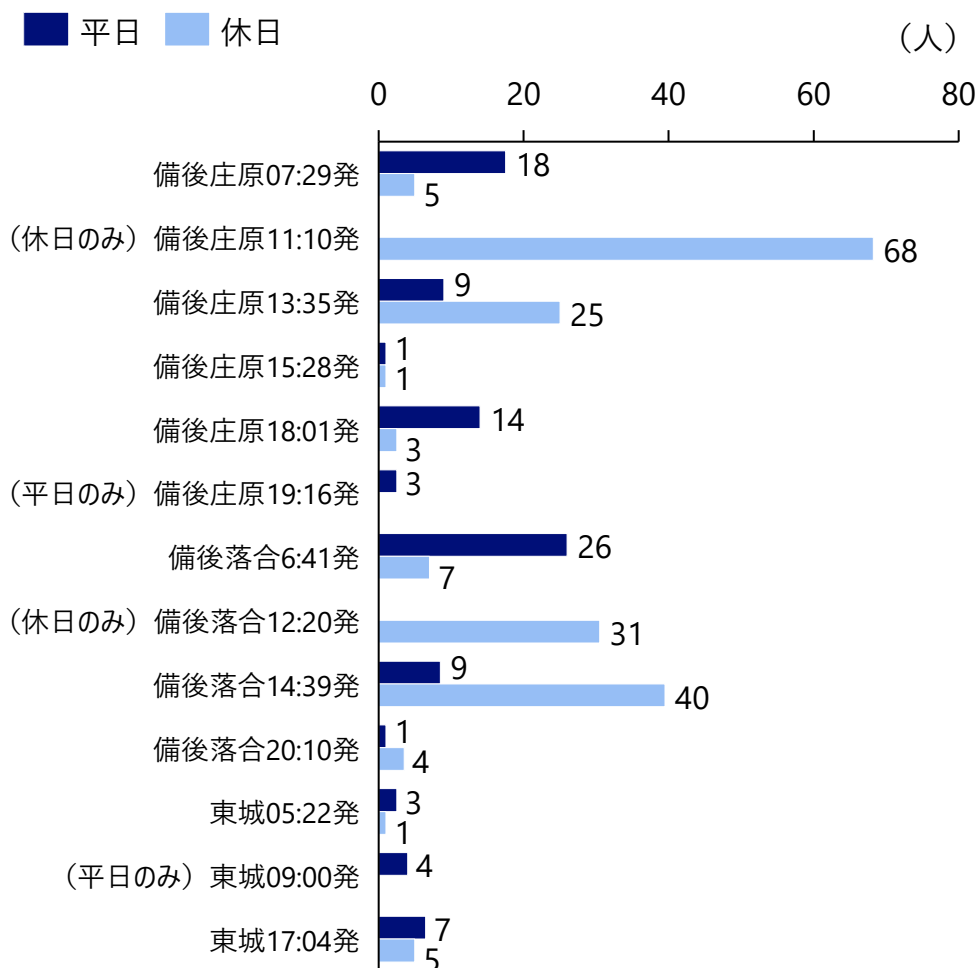
質問一覧（確定）

#	質問文
1	ご自宅のエリアを教えてください。〈○は1つ〉
2	本日の外出の目的を教えてください。〈○は最も当てはまるもの1つ〉
3	今回の外出において、庄原市・新見市エリアで使う金額を教えてください。〈○は1つ〉 ※交通費は除いてお答えください。 ※宿泊を伴う場合は、滞在期間中の1人当たりの合計金額をお答えください。
4	もしこのバス（タクシー）が無かったらどのように対応していましたか。〈○は1つ〉
5	運賃が何円までであればこのバス（タクシー）を利用しますか。〈○は1つ〉
6	このバス（タクシー）の前後に芸備線を利用しますか。〈○は1つ〉
7	芸備線の乗車区間を教えてください。〈選択肢から数字で選んで回答〉 ※片道だけ利用の方は「行き」のみご記入ください。
8	JR芸備線に関する実証実験（芸備線の増便・時間変更、一部駅からの臨時バスの運行等）を知っていましたか、知っている場合は何で知りましたか。〈○は当てはまるもの全て〉

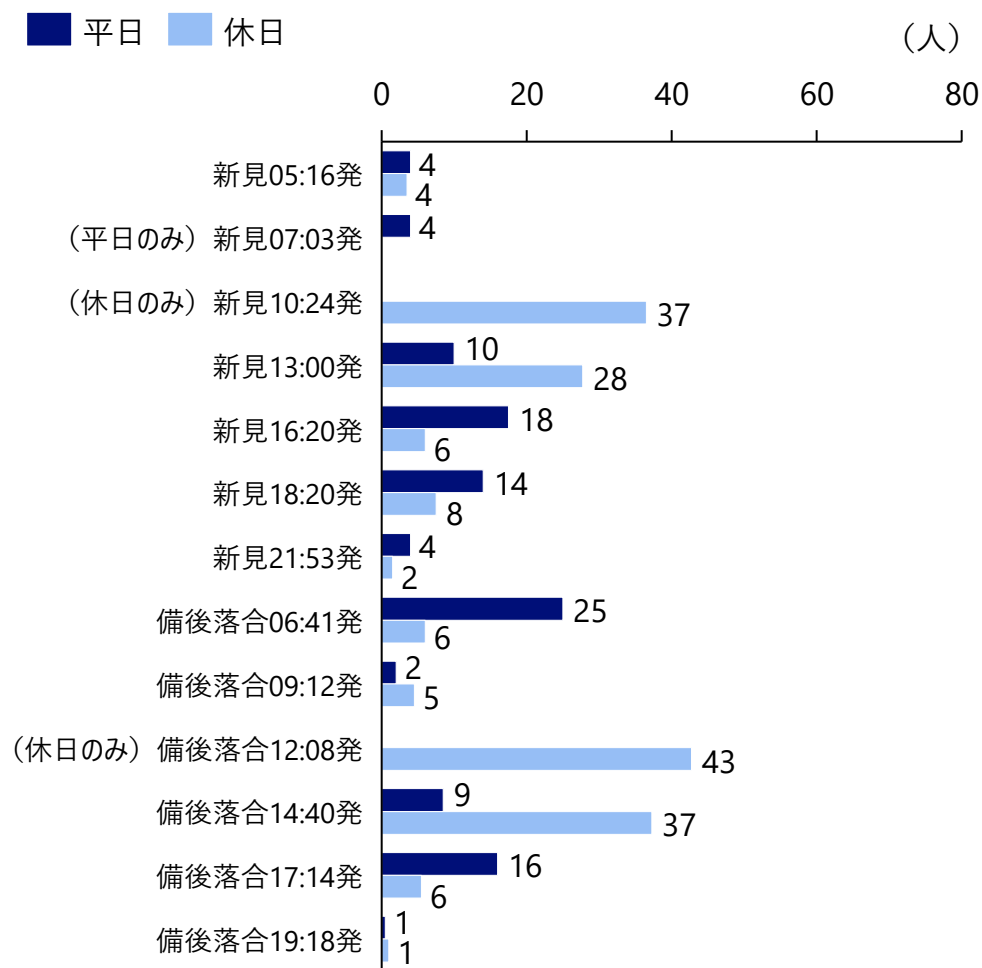
(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車調査集計

8月、9月の列車調査では、計106便が調査対象で延べ1,747名の乗車があった
(1便あたり平均約16名)

調査列車（上り）の1日平均乗車人数 ※備後庄原～新見間



調査列車（下り）の1日平均乗車人数 ※備後庄原～新見間



(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車調査集計

調査対象列車の利用者のうち、889名の回答があった

※1人1回までの回答である点に留意が必要

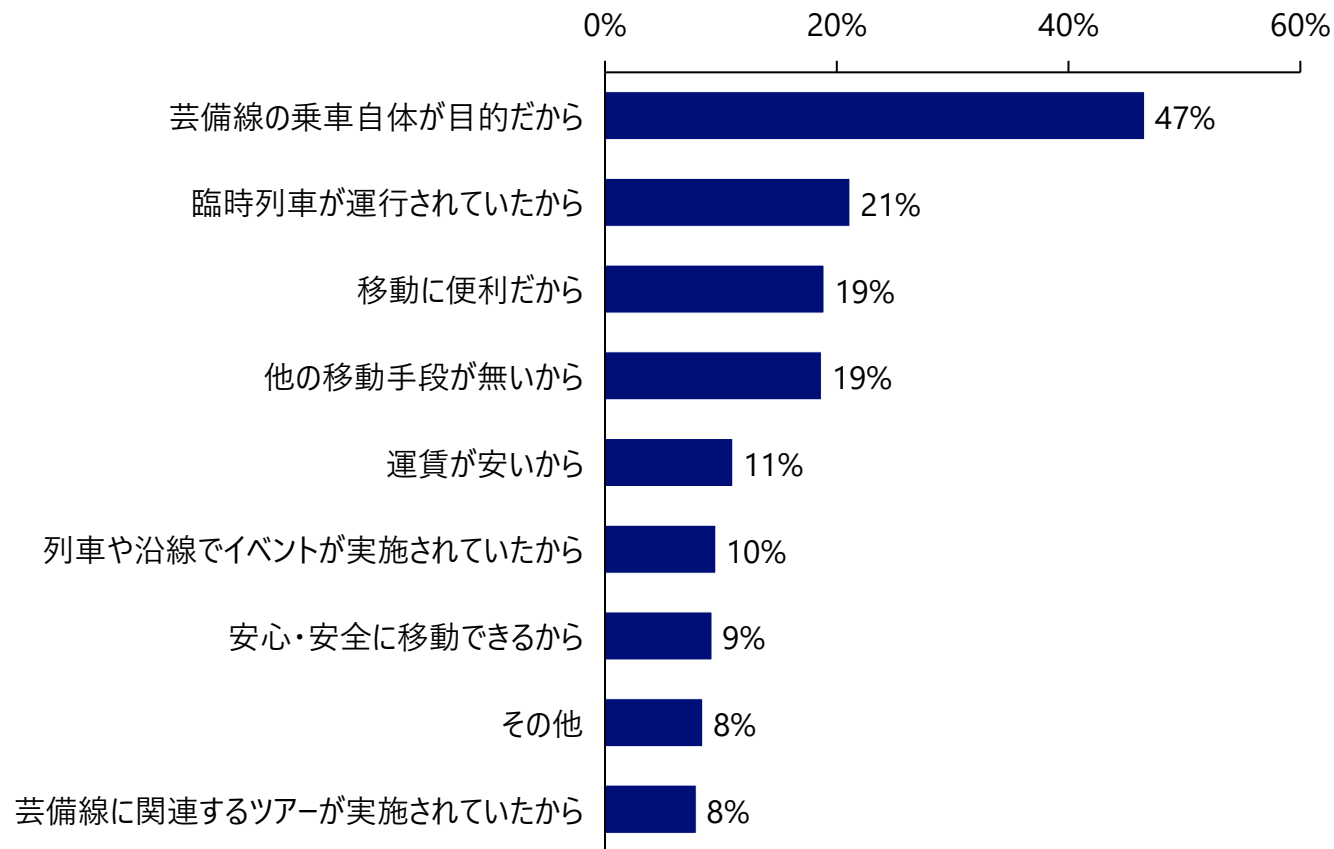
各調査日における回答者属性ごとの人数

自宅エリア	平日	休日
広島県庄原市	76	72
広島県（庄原市以外）	20	198
岡山県新見市	38	33
岡山県（新見市以外）	2	57
中国地方（広島県・岡山県以外）	1	22
近畿地方	19	101
関東地方	29	115
日本（その他地方）	10	79
その他	1	10
無回答・無効回答	1	5
合計	197	692

(1) 調査事業 A から派生する追加的な調査等 | 列車調査集計

利用のきっかけは、「芸備線の乗車自体が目的」が最多だった。
また、増便実証をきっかけとした利用も一定数見られた

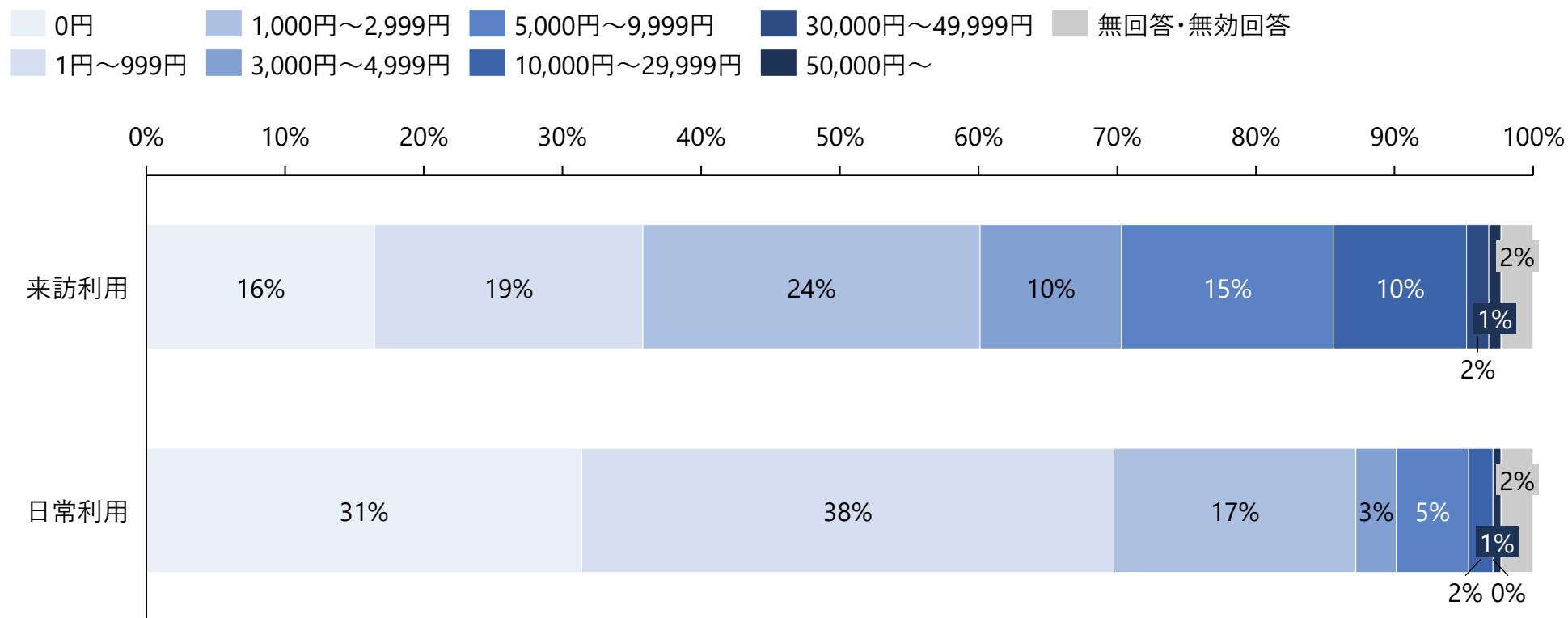
Q3. 本日芸備線を利用したきっかけを教えてください。（複数回答／n=889）



(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車調査集計

沿線での消費にはつながっているものの、
約6割の来訪者が消費額3,000円未満であった

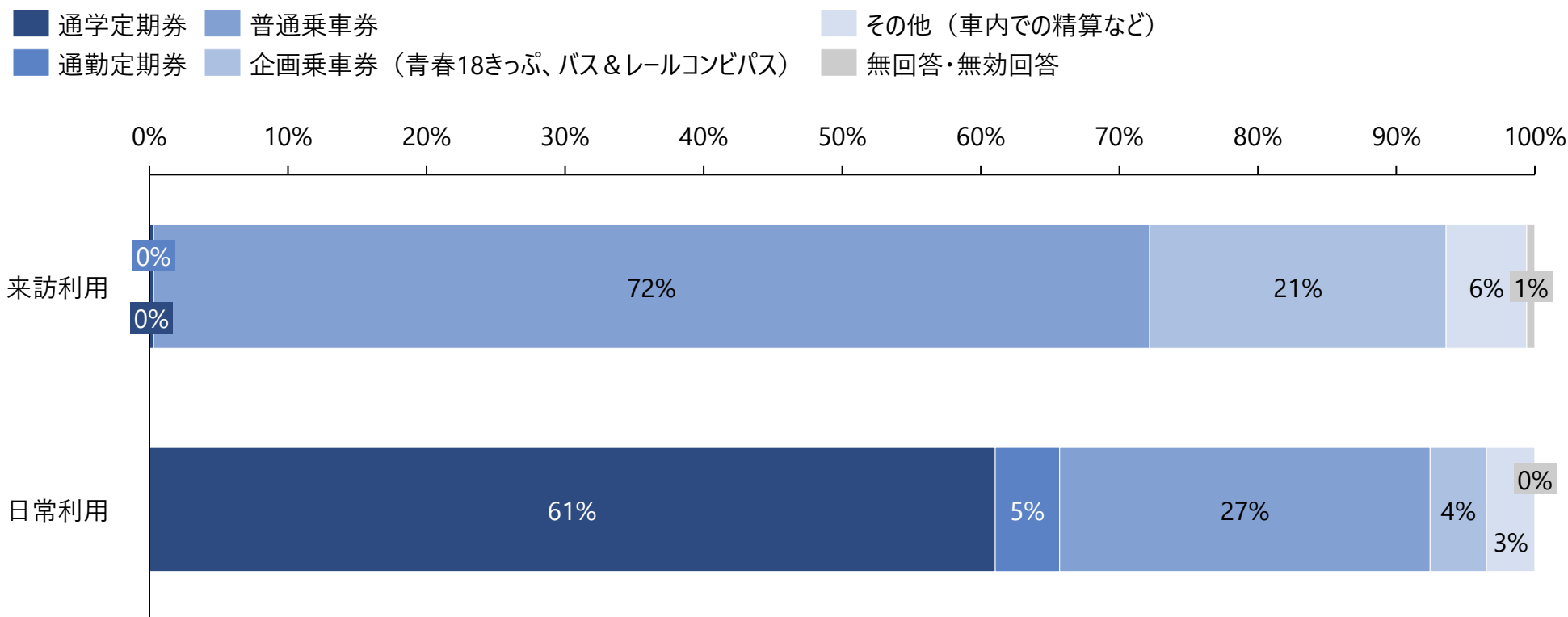
Q4. 今回の外出において、庄原市・新見市エリアで使う金額を教えてください。(単一回答／来訪利用：n=687, 日常利用：n=172)



(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車調査集計

来訪利用は、青春18きっぷ等の企画乗車券を利用している乗客が2割を占めた。
一方、日常利用は6割程度が通学定期券を利用していた

Q5. 本日芸備線で使用したきっぷを教えてください。(単一回答／来訪利用：n=687, 日常利用：n=172)

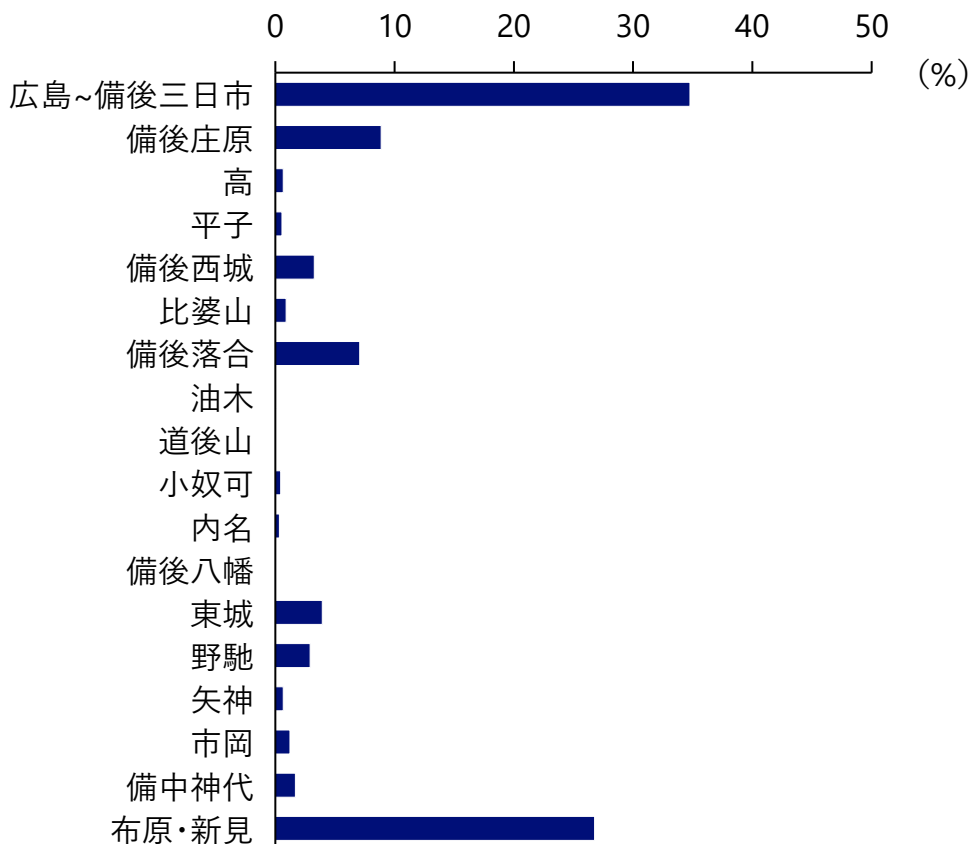


(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車調査集計

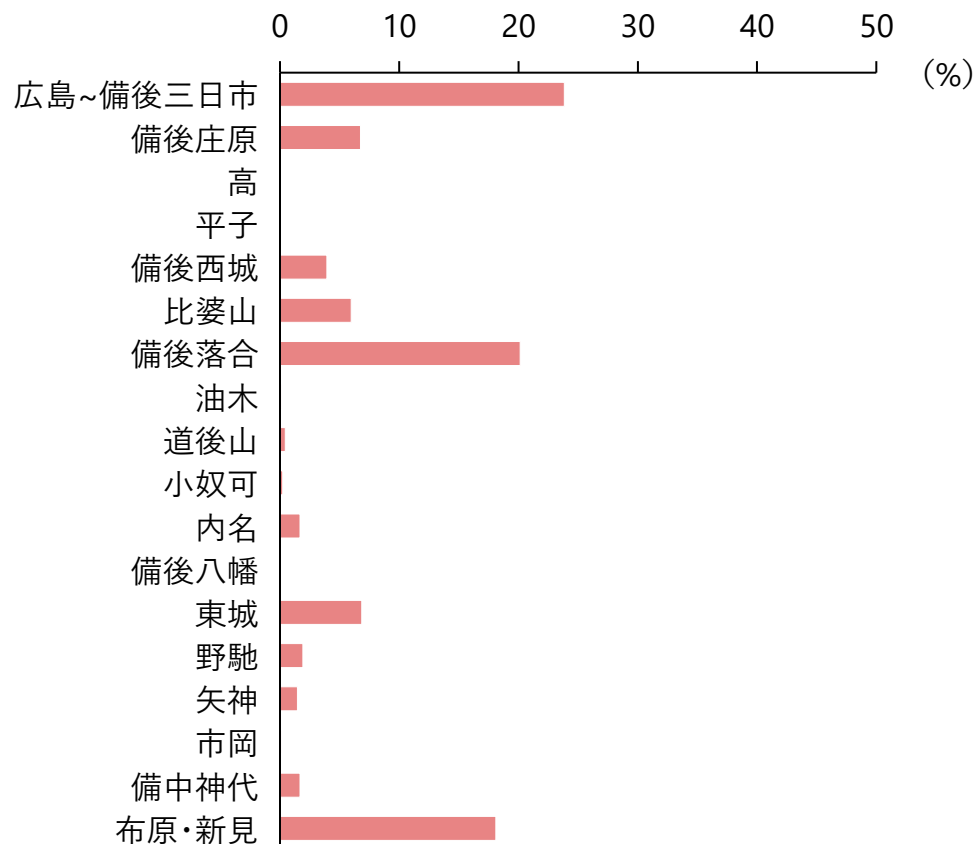
臨時快速列車を利用して、特定区間外から来訪し、
備後落合駅で降車する、もしくは特定区間外まで乗り通す人が多い

Q6.芸備線の乗車区間を教えてください。(単一回答／n=889)

乗車駅 (行き)



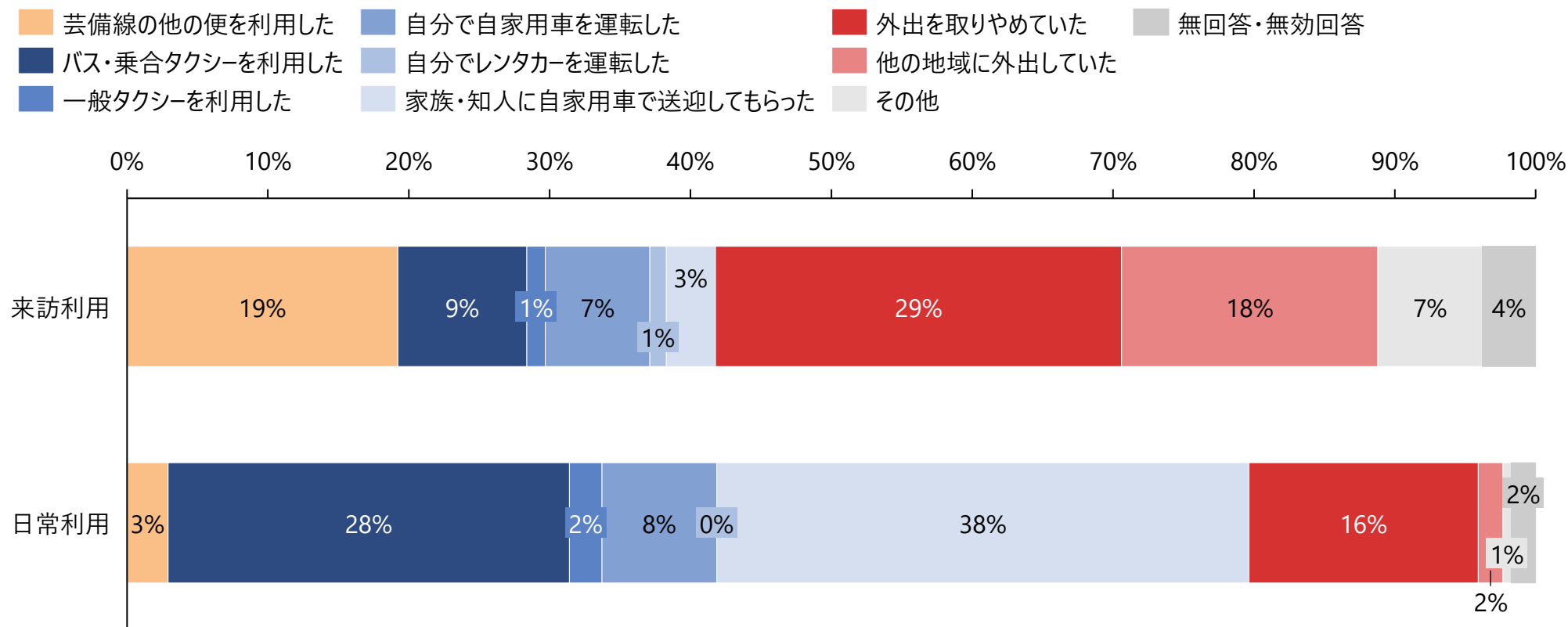
降車駅 (行き)



(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車調査集計

列車が運休していた場合について、来訪者の約半数が庄原・新見に訪れなかったと回答。
一方、日常利用者は家族・知人に送迎してもらう人が4割弱を占めた

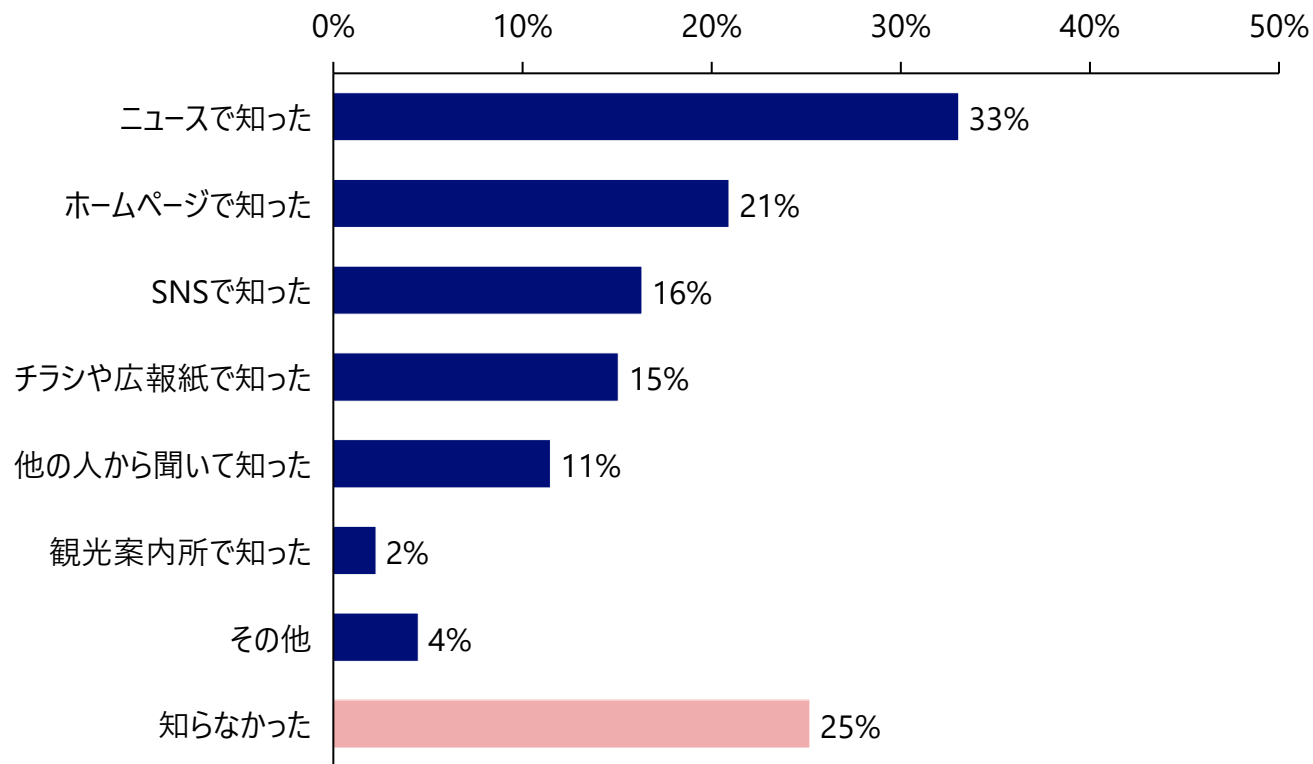
Q7. もしこの列車が運休していたらどのように対応していましたか。(単一回答／来訪利用：n=687, 日常利用：n=172)



(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車調査集計

約3割の人がJR芸備線に関する実証実験を「ニュースで知った」と回答。
一方、実証実験について知らなかった人は4分の1程度存在した

Q8. JR芸備線に関する実証実験（芸備線の増便・時間変更、一部駅からの臨時バスの運行等）
を知っていましたか、知っている場合は何で知りましたか。（複数回答／n=889）

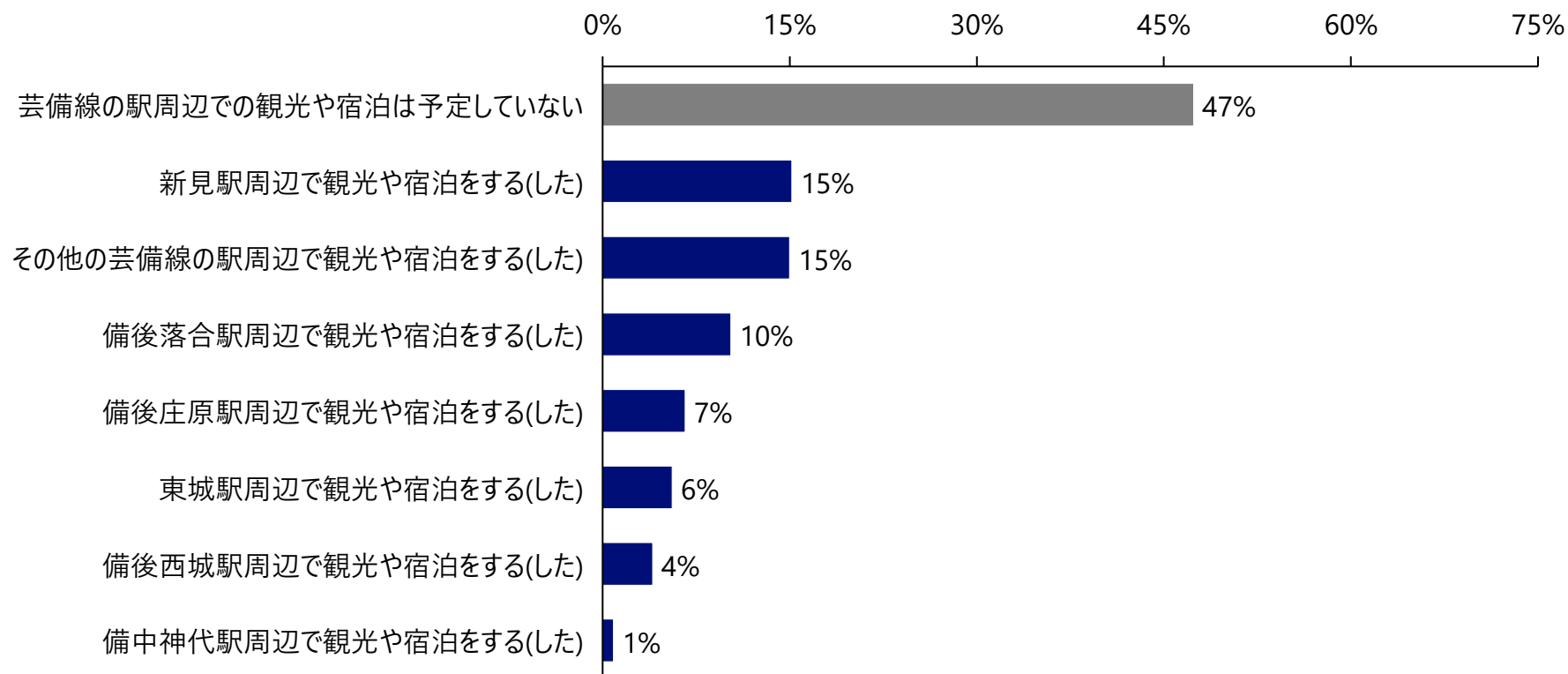


(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車調査集計

「芸備線の駅周辺での観光や宿泊は予定していない」という回答が半数弱を占めた。
また、観光・宿泊地として最も回答が多かった地域は新見となった

Q9. 観光や芸備線への乗車が目的の方に伺います。

芸備線の駅で降りて、観光や宿泊は予定していますか。(複数回答／n=574)



(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車調査集計

列車調査(8月、9月分)では、増便の利用があった一方で、乗り通す人が多く消費金額が低いという課題も見られた。今後、実証Aの本格化に伴い、傾向が変化するかを検証していく

アンケート結果

利用人数

8月、9月の調査対象列車では、1便あたり平均16名が乗車
特に、広島方面からの直通快速列車は68名と
一定の利用が見られる

利用の傾向 (価値)

青春18きっぷ等の企画券利用者や
「乗車自体が目的」と回答する方が多くみられ、
鉄道ならではの誘客につながっていることが確認された

利用の傾向 (課題)

「乗車自体が目的」であるがゆえに、
途中下車をしない人が多く、
消費金額が少ない傾向が見られた

今後の調査方針

青春18きっぷ期間が終了し、かつ
実証Aの本格化も進む10月以降の
状況を引き続き調査していく

- 調査事業の実施内容

- (1) 調査事業 A から派生する追加的な調査等

- (2) まちづくり・観光との連携による地域社会や公共交通の持続可能性の調査

- (3) 総合的な分析の実施

(2) まちづくり・観光との連携による地域社会や公共交通の持続可能性の調査

鉄道事業再構築や、鉄道とまちづくり・観光の連携を図った先行事例を合計15程度収集し、今後芸備線特定区間が取りうる選択肢の整理に活用する

他地域事例調査の対象

調査内容

◎：特に重点的に調査する事項 ○：調査する事項

	当該鉄道の特徴 (輸送量、利用者等)	公共交通とまちづくり・ 観光連携の方針	具体施策と選択理由	実施体制と費用分担
鉄道事業の機能強化 および再構築事例 ※鉄道事業再構築実施計画の 認定事例および類似事例	○	○	◎	◎
鉄道とまちづくり・観光の 連携を図った事例	○	◎	◎	○
旧三江線	—	○	◎	◎

合計15事例程度を選定
(議論中)

芸備線特定区間でも応用しうる選択肢を整理する

(2) まちづくり・観光との連携による地域社会や公共交通の持続可能性の調査

多様な可能性を洗い出せるように、幅広い考え方を収集する

事例調査候補（例）

分類	事例	交通モード×事業構造	取組内容
鉄道事業の 機能強化および 再構築事例	南阿蘇鉄道	鉄道(普通鉄道)×上下分離	他路線への直通化、新たな観光列車の導入等を実施（上下分離を併せて実施）
	一畑電車	鉄道(普通鉄道)×みなし上下分離	利便性向上のために新車導入、利用補助等を実施（みなし上下分離を併せて実施）
	JR城端線・氷見線	鉄道(普通鉄道)×三セク化 ※議論過程でLRT化も検討	新車導入、増発等を実施予定 （三セク化を併せて実施）
	ひたちなか海浜鉄道	鉄道(普通鉄道)×三セク化	教育施設の整備に合わせた新駅設置等を実施 （三セク化を併せて実施）
	阿佐海岸鉄道	鉄道(DMV)	世界初の営業DMV路線として、 観光と連携した取組を実施
鉄道とまちづくり・ 観光の連携を 図った事例	JR内房線・江見駅	鉄道(普通鉄道)×郵便局	駅舎と郵便局を合築化
	JR日南線・北郷駅	鉄道(普通鉄道)×商業施設	駅周辺に道の駅を新設、バス停を設置し 交通結節点としても機能
	京都丹後鉄道	鉄道(普通鉄道)×インバウンド誘客	インバウンド向けの企画乗車券、観光商品等を 導入
	長門湯本温泉	鉄道(普通鉄道)・バス ×観光まちづくり会社	まちづくり会社が観光アクセスの改善にも参画
旧三江線	旧三江線	バス(定時定路線、デマンド) ×自治体(+JR参画)	鉄道を代替バスに転換し、その後さらに 一部路線をデマンドバスに転換

■ 調査事業の実施内容

■ （１）調査事業 A から派生する追加的な調査等

■ （２）まちづくり・観光との連携による地域社会や公共交通の持続可能性の調査

（３）総合的な分析の実施

(3) 総合的な分析の実施

(1) で実施中のアンケート結果等も踏まえて、昨年度検討した「費用および定量的価値」について、試算の精緻化や実証Aの効果検証を行うことを目指す

「費用および定量的価値」の精緻化および効果検証の考え方 ※グラフは昨年度調査報告書より抜粋

費用の精緻化・検証

定量的価値の精緻化・検証

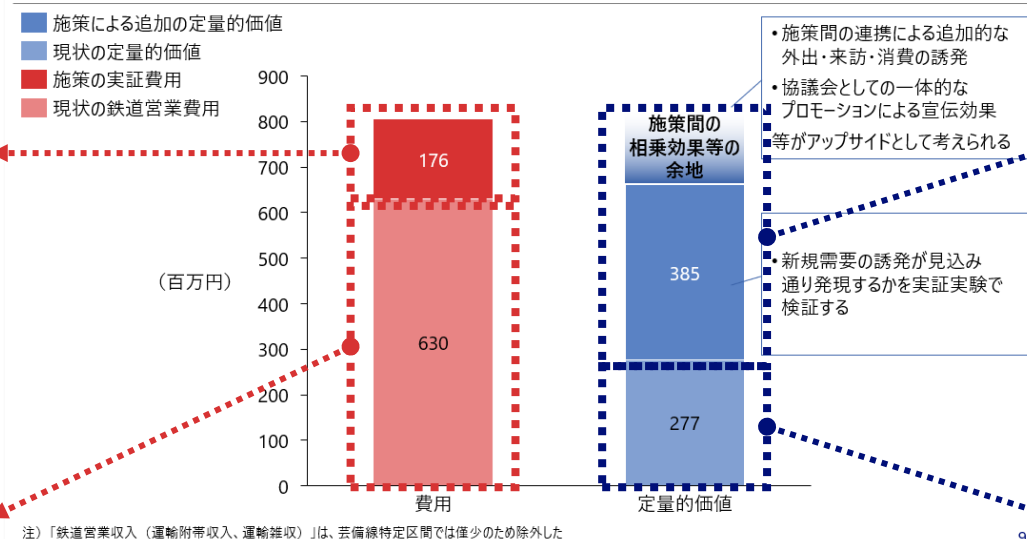
1

実証Aの対象施策に
要する費用を精緻化

2

現状の営業費用の精査
※2024年度データへの更新等

芸備線特定区間の費用および定量的価値



3

実証A期間中の各種
取組による利用増加、
消費増加等の効果検証
※アンケート調査、人数カウント、
地域からのデータ提供等
もとに試算

4

「現状の定量的価値」
の精緻化
※列車アンケート調査を通して、
利用者の属性や消費額等の
データを更新

(3) 総合的な分析の実施

列車アンケートでは、実証Aの検証および既存試算の精緻化に必要なデータを収集するほか、議論の参考情報として「きっぷの種類」、「下車観光の有無」、「実証の認知」も整理する

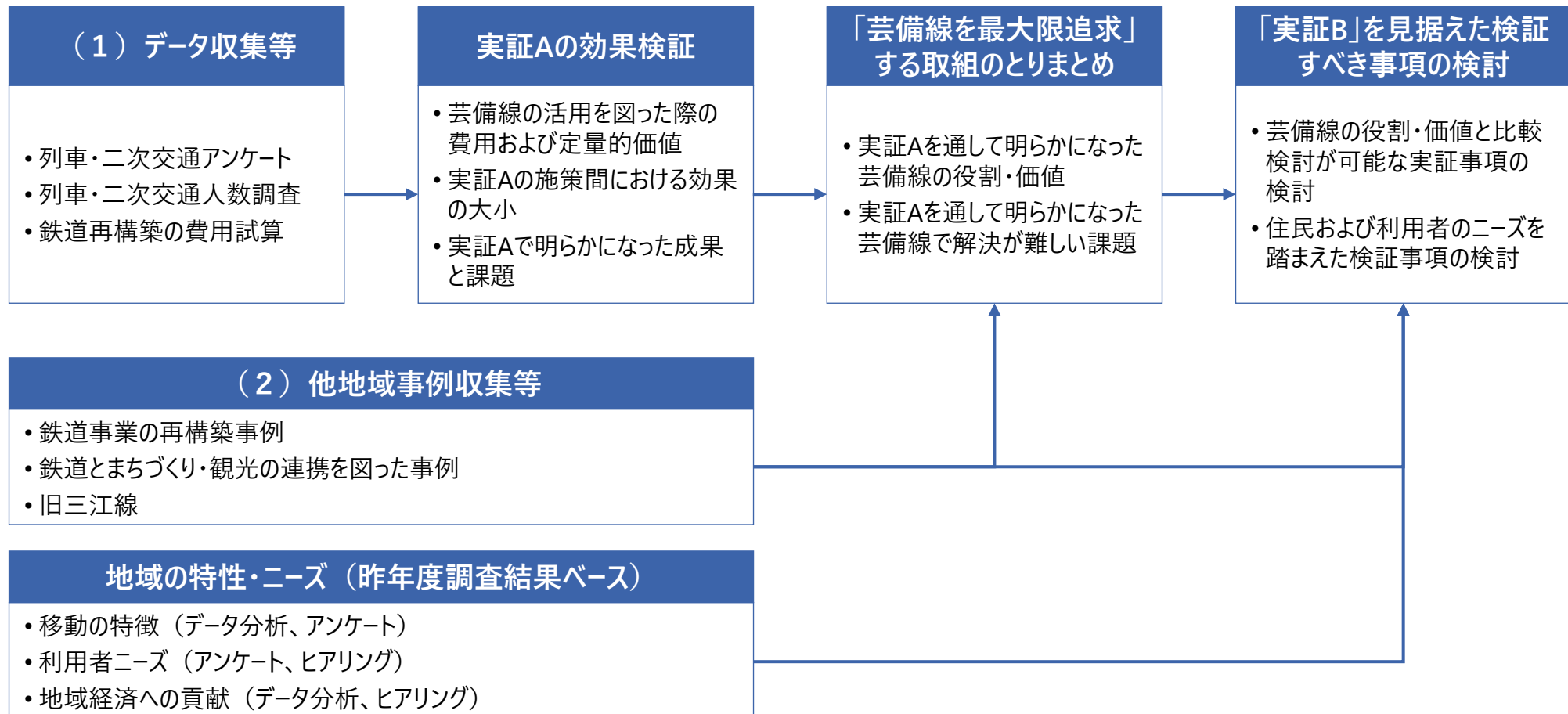
列車アンケート（・人数カウント）と検証・精緻化項目の関係性

		◎：今年度新規に取得する項目 ○：昨年度推計を精緻化する項目 △：定量的価値の試算には用いないが、議論の参考として収集する項目										
目的	検証・精緻化項目	問1 自宅エリア	問2 外出目的	問3 利用の きっかけ	問4 消費金額	問5 きっぷの 種類	問6 乗車区間	問7 運休時の 対応	問8 実証の 認知	問9 下車観光 の有無	人数 カウント	輸送 密度
③実証Aの 効果検証	1. 実証により、新たに外出・来訪・移動手段変更に至った人は、区間別・目的別に何人ずつ現れたか？▶		◎	◎ 実証がきっかけの割合			◎				◎ 特定イベントの効果	◎ 全体的な傾向
	2. 1人あたりの効果（消費額など）は何円か？▶	◎			◎			◎				
④「現状の定量的価値」の 精緻化	3. 区間別・目的別の芸備線利用者は何人ずつか？（1.の人を除く）▶		○	○			○				○	○
	4. 1人あたりの効果（消費額など）は何円か？▶	○			○			○				
その他 （参考情報）	企画乗車券の利用者は何人程度か？▶					△						
	利用者はどの地区で観光しているか？下車観光の有無で消費額はどう異なるか？▶									△		
	実証は認知されているか？▶								△			

(3) 総合的な分析の実施

実証Aの効果検証と他地域事例を踏まえて、「芸備線を最大限追求」する取組をとりまとめる
とともに、改めて地域の特性・ニーズも振り返りながら「実証B」の検証事項を整理する

総合的な分析のイメージ



(3) 総合的な分析の実施

鉄道の役割や価値は、他の交通モードとの相対比較で現れる要素もあり、また、実証Bで検証すべき課題の抽出も見据えて、事例調査対象に「他モードでまちづくり・観光と連携した事例」も加えてはどうか

「芸備線を最大限追求」する取組をとりまとめる視点

